



ソングマスター So-  
ngmaster (1980) オカ早  
ースン・スコット・カード (冬川互訳) 川書房 (文庫) (3 /  
31刊・¥600)

意外によく出来た作品だった。

数年前、オースン・スコット・カードが話題になったころは、あまり際立った印象を受けなかったけれど、今回初翻訳された大部の長篇『ソングマスター』の仕上りはなかなかのものだ。

はるか二万年の未来、銀河帝国の二代にわたる皇帝と、彼らに仕えたソングバード、アセットの物語。ソングバードとは、惑星テュのソングハウスが創り出した、最高の歌い手たちのことだ。歌声は比類がなく、聞く者の感情や行動さえも左右する。

まず描写力がある。構成もまずまず。ただ、成程と思えた人物描写が、時にくどすぎることもある。けれど、それは本書の設定では、むしろ自然な書き方なのだろう。ありえざる超未来、またありえざる、歌の物語なのだから。その辺り、悪くとれば、非現実的ファンタジーといえなくもない。宮廷物でありながら、権謀術数のドラマは少なく、皇帝とアセットとの愛（と書くとクサイ）が全篇を貫いている。しかし、不満を感じさせない旨さは、確かにある。八四年四半期の、まずは注目作。

(後)